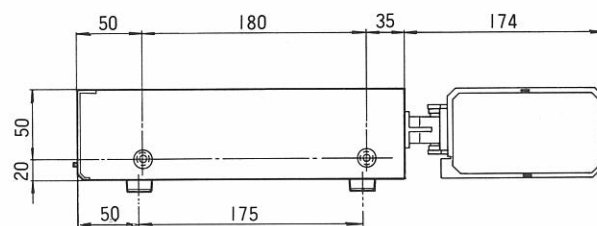
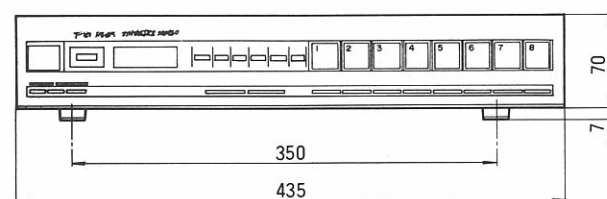
寸法図

（注）・寸法の単位は mm です。
・上記の寸法は設計寸法ですので、ラック（棚）などに設置する場合は、若干の余裕を考慮してください。

ご注意

本機に初めて電源をいれたとき、あるいは電源コードを長期間放置しておいてから電源をいれた場合には、録音レベル用の基準信号 333Hz がでてくることがあります。
しかし、これは故障ではありませんので、このような場合には電源スイッチをいったん切るか、REC CAL（キャリブレーションの略）のボタンを再度押し直してください。

日本ビクター株式会社 ステレオ事業部

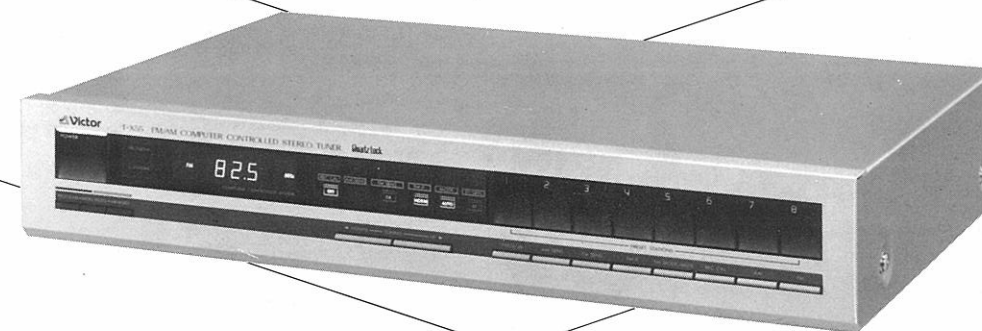
所 在 地 〒242 神奈川県大和市下鶴間甲10号1644番地 電話（0462）74－2121(代表)
お問合せ先 ビクターインフォメーションセンター 電話（03）580－2861
〒100 東京都千代田区霞が関3丁目2番4号

E30530-1050A

Victor "HIS MASTER'S VOICE"

FM/AM コンピューター コントロール チューナー

T-X55

取扱説明書

— お買いあげありがとうございます —
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
お読みになったあとは、大切に保存してください。

ご注意

■ 安全上の注意

100V 以外は使用しない

・**電源電圧は**
交流 100V をご使用ください。

・**電源周波数は**
50Hz 地域 または 60Hz 地域でもそのまま使用できます。

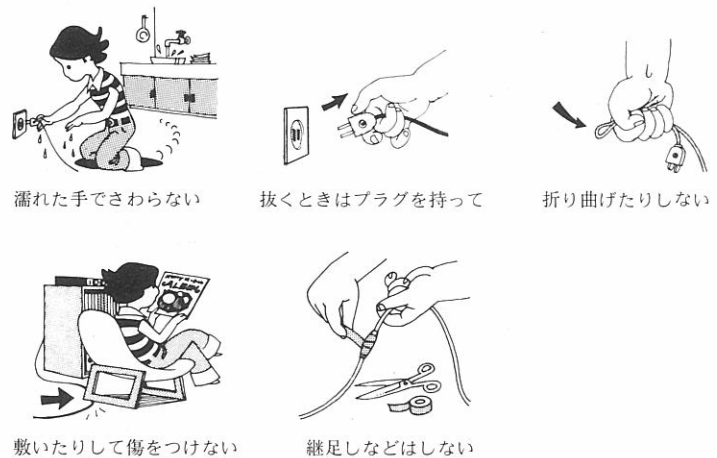
・**電源コードを取り扱うときは**
電源コードの取り扱いかたが悪いと、火災や感電の原因となることがありますので、次のような点に十分ご注意ください。

濡れた手でさわらない

抜くときはプラグを持って

折り曲げたりしない

敷いたりして傷をつけない

継足しなどはしない

・**異常と感じたときは**
煙がでている、変な匂いがする……などの故障状態のまま使用すると危険です。すぐに電源プラグをコンセントから抜いて販売店に修理をご依頼ください。

・**セットの内部に触れることは**
危険なうえ故障の原因となります。内部の点検・調整は、販売店へお任せください。

・**水がこぼれたときは**
セットの上に花びん、化粧品、薬品など水の入った容器を置かないでください。
万一内部に水が入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。
そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。

・**落雷の恐れがあるときは**
雷の音が鳴りだしたら早めに電源プラグを抜いてください。このときアンテナ線には、絶体ふれないようにご注意ください。

■ 取り扱い上の注意

・性能の維持確保 あるいは 故障防止のため、次のような場所はできるだけさけてください。

周囲温度が "0°C～40°C" の範囲を越える所

寒い部屋から急に暖かい部屋への移動

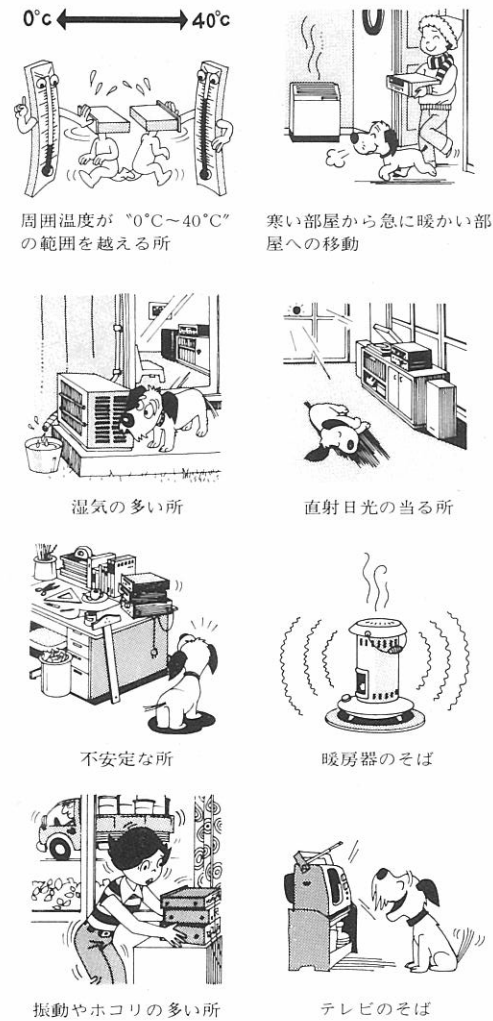
湿気の多い所

直射日光の当る所

不安定な所

暖房器のそば

振動やホコリの多い所

テレビのそば

・**外国での使用は ？**
本機は日本国内用に作られていますので、放送規格、電源電圧、電源周波数の異なる外国では、使用できません。

・**キャビネットが汚れたら**
中性洗剤などで汚れを落し、乾いた布でふきとります。
シンナーやベンジンなどの使用は、ひび割れ、変色を招きます。

保証とアフターサービス

■ 保証書には、購入年月日などが必要

この商品には、保証書を別途添付しております。保証書はお買いあげ販売店でお渡ししますので、所定事項の記入 および記載内容をご確認いただき、大切に保存してください。

■ 保証期間

保証期間は、お買いあげ日より1年間です。保証書の記載内容により、お買いあげ販売店が修理いたします。
そのほか詳細は、保証書をご覧ください。

■ アフターサービスのお問い合わせは

ご転居・ご贈答・その他アフターサービスについてご不明の点は、お買いあげ販売店 または 別紙「ビクターサービス窓口案内」をご覧のうえ、もよりのサービス窓口にお申し出、ご相談ください。

■ 保証期間経過後の修理

保証期間経過後の修理については、販売店にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。

■ 補修用性能部品の保有期間

ステレオの補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。この期間は、通商産業省の指導によるものです。
なお、補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

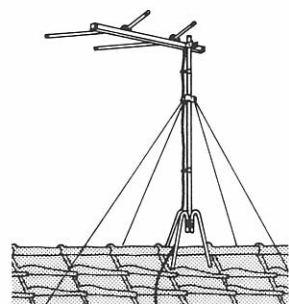
■ 修理依頼

修理を依頼されるときは、お手数でももう一度「故障？ と思う前に」の項（13ページ参照）をよくご覧になってお調べください。
それでも具合が悪いときには、電源プラグをコンセントから抜いて、次のことをお知らせください。

- **型名：T-X55**
- **住所、氏名、電話番号、道順**
- **訪問希望日**
- **故障状態をできるだけ詳しく**

接続のしかた

すべての接続が終るまで、電源プラグは　コンセントにさしこまないでください。

FM 屋外アンテナ

■ **FM アンテナを一番感度のよい方向に固定するには、**FM 放送を聞きながらアンテナをいろいろな方向に回し、FREQ/dB のボタン（7ページ参照）を押して、電界強度の表示（dB）が大きくなる方向をさがしてください。
また、**マルチパス妨害**（TV の映像の場合ゴーストに相当するもので、電波が山やビルディングに反射し、少し遅れてアンテナに到来するために起こる妨害）**の一番少ない方向をさがすには、**アンプ側の TREBLE（高音）つまみを最大、BASS（低音）つまみを最小にして比較的大きな音を聞きながら、歪音やジュルジュル または シューという妨害音が最も低くなる方向へアンテナを動かしてください。

■ FM 屋外アンテナとチューナーのアンテナ端子を結ぶケーブルとして**同軸ケーブル（75 Ω）**を使用しますが、同軸ケーブルはフィーダー線より損失が多くなる反面、周囲からの妨害に対して強いという利点があります。
一般には 3C-2V の同軸ケーブルが使用されておりますが、電波事情の悪い地域では 3C-2V より更に損失の少ない 5C-2V をおすすめします。

添付の FM アンテナ

Tの字状態となるようにぴーんと張って、もっとも受信状態のよい方向をさがす。

■ 添付されております FM アンテナはあくまで簡易的なもので、電波事情のよい地域のかたのためのものです。
FM 放送を Hi-Fi 受信するためには、FM 専用の屋外アンテナをご使用ください。テレビ アンテナと共用することは、受信状態がむしろ悪くなることが多いので、おすすめできません。

FM アンテナを束ねたまま床などに放置しないでください。

AM 屋外アンテナ

電波が弱くて聞き苦しいときには、上図のようなアンテナを設置してください。
また、添付のアンテナ ワイヤーを使用するか、あるいは "物干" などを利用して 3 m ～ 5 m のビニール線を張る程度でも十分効果があります。

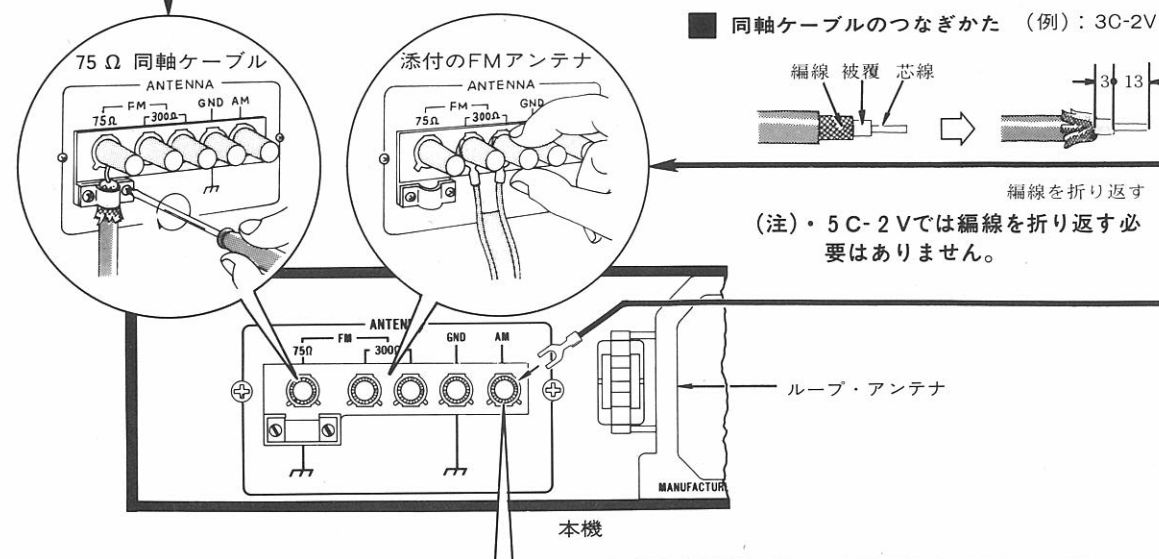
（注）・
AM 用外部アンテナをご使用になる場合には、かならず "GND" 端子 にアース線を接続し、大地アースをとってください。雑音が減ります。

■ **同軸ケーブルのつなぎかた**　（例）：3C-2V

編線　被覆　芯線

3　13

編線を折り返す

（注）・5C-2Vでは編線を折り返す必要はありません。

■ **ループ・アンテナ**

添付のループ・アンテナを接続しなかったり、または 接続していても右図のようにシャーシー アースされていますと、AM 放送を受信することはできません。
アンテナ線を接続するときは、シャーシー アースしないようにご注意ください。
なお、添付のアンテナ ワイヤーや屋外アンテナを使用するときでも、ループ・アンテナ線ははずさないでください。

ループ・アンテナの取り付け

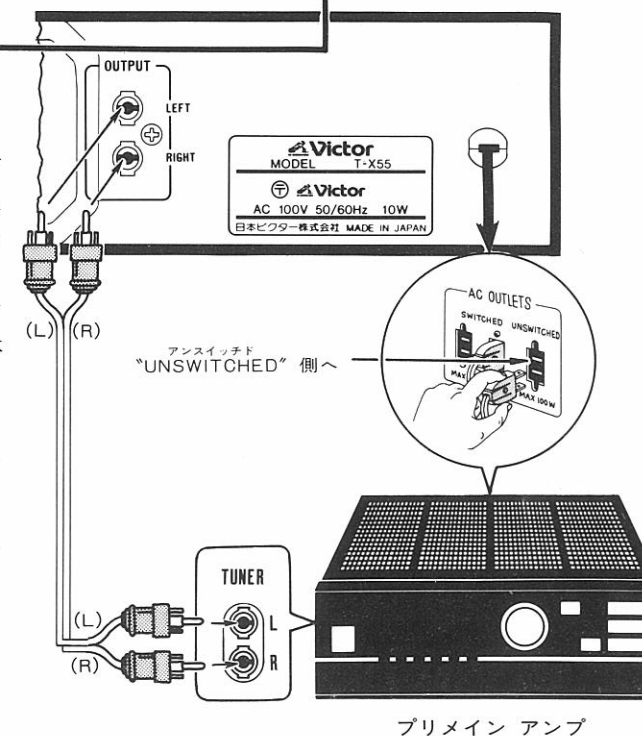
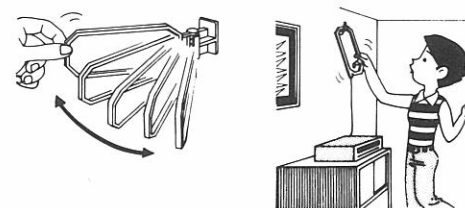
ループ・アンテナ線

■ **AM 放送で雑音が多いときには**

本機 および プレーヤーやテープデッキのシグナル コードがループ・アンテナに近づいていたり、あるいは ループ・アンテナの向きが悪かったりしますと、雑音を生じることがあります。
シグナル コードはできるだけループ・アンテナから離し、ループ・アンテナをもっとも受信状態のよい方向に固定してください。

プリメイン アンプ

主要部分の名称および働き

PROGRAM（プログラム） インジケーター

PROGRAM のボタンを押すとこのインジケーターが点灯し、留守録音時の番組予約を表示します。

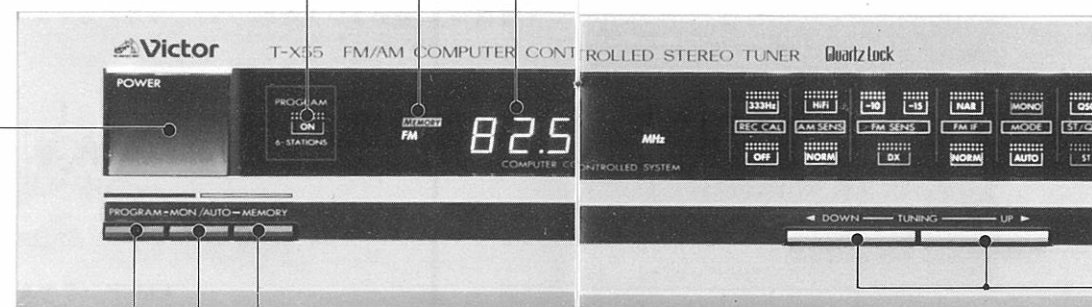
（注）・このインジケーターが点灯しているときには、MEMORY と MON/AUTO のボタン以外は操作することができません。

POWER（パワー）

本機に電源をいれる場合、このボタンを押してください。
ボタンのすぐ上のインジケーターや螢光表示管および 各種のインジケーターが点灯します。
なお、電源を切る場合には、再度このボタンを押してください。

（注）・本機では POWER スイッチを切っても電源プラグをコンセントから抜かない限り 2W の電力が消費されております。
これはプリセットされた放送が消えないようにしているためで、記憶（メモリー）回路だけはいつも〝STAND BY（スタンバイ）〞の状態となっております。
そのため電源を切った場合でも、次にはかならず電源を切る前の放送から受信されます。
なお、停電があった場合やタイマーなどを使用した場合 または 電源プラグを抜いたときでも、常温で4日間程度は放送がプリセットされております。
しかし、これを越えますとプリセットされた放送が解除されますので、そのときには再度プリセットし直してください。

PROGRAM（プログラム）

本機では6つまで番組予約することができます。
番組を予約する場合には、PROGRAM および MEMORY インジケーターが点灯するように、このボタンと MEMORY のボタンを押してください。
なお、詳細は「■ 番組予約のしかた」の項・11ページをご参照ください。

説明用に特別撮影したフロントパネルを使用しておりますので、実際には上の写真のようにインジケーターがすべて点灯することはありません。

（注）・弱電界地域 または妨害電波の多い地域では、自動選局をしなかったり、オートメモリーをしない場合があります。そのような所では、屋外に専用アンテナを立てるか、手動選局に切り替えてお聞きください。

MON/AUTO（モニターの略 オート）

PROGRAM MON の場合

番組を予約した場合、PROGRAM のボタンを押してこのボタンを押すと、予約した順にその周波数を確認することができます。

AUTO MEMORY の場合

このボタンを押して MEMORY インジケーターが消えないうちに希望する PRESET STATION のボタンを押せば受信周波数が高い方に変化し、途中に放送があれば順次自動的に記憶（メモリー）していきます。しかし、最初に表示されていた周波数は記憶されませんので、その周波数を記憶させるときには、それより低い周波数からスタートさせてください。
この場合受信周波数が上限に達すると、記憶された放送の中で一番高い周波数の所にもどされて止まります。
なお、AUTO MEMORY の場合 AM 放送では AM SENS が〝NORM〞の状態で、また FM 放送では MODE が〝AUTO〞の状態となり、電波事情に応じて FM SENS、FM IF、ST/QSC はその都度自動的に最適受信状態に切り替わって記憶されます。

（注）・MEMORY インジケーターが消えたあと、PRESET STATIONS のボタンを押しても、AUTO MEMORY はできません。

MEMORY（メモリー） インジケーター

MON/AUTO および MEMORY のボタンを押すと、約5秒間このインジケーターが点灯します。

螢光表示管

FM 放送と AM 放送の周波数表示は MHz と kHz の単位で、また 電界強度は dB（デシベル） の単位で表示します。

TUNING（チューニング）

DOWN（ダウン）(◀)：受信周波数を低くする場合、このボタンを押します。
UP（アップ）(▶)：受信周波数を高くする場合、このボタンを押します。

**（注）・TUNING のボタンを1回ずつ押せば AM 放送では 9kHz、FM 放送では 100kHz のステップで受信周波数が変化します。
また、1秒以上押し続けてから手を離すと自動選局となって周波数が連続して変化し、放送を捕えるとその周波数を表示して止まりますが、ボタンを押し続けると放送を受信しても早送りされます。
しかし、自動選局中に再度このボタンを押せば、押した所で選局が止まります。
なお、1回ずつ押したときには、受信周波数が上限 または 下限に達するとそれ以上周波数は変化しませんが、自動選局にすると逆方向にもどされます。**

MEMORY（メモリー）

このボタンを押すと MEMORY インジケーターが約5秒間点灯しますので、点灯している間に PRESET STATIONS のボタンを押してください。
放送が記憶（メモリー）されます。

**（注）・MEMORY インジケーターが消えてから、PRESET STATIONS のボタンを押しても放送を記憶させることはできません。
そのような場合には、再度このボタンを押し直してください。**

主要部分の名称および働き

プリセット　ステーション
PRESET STATIONS（1～8）

本機では1つの PRESET STATION の中に AM 局と FM局を記憶（メモリー）させることができますので、AM 放送で8局、FM 放送で8局プリセットすることができます。
MEMORY インジケーターが点灯している間にこのボタンを押してください。押した場所にその放送がプリセットされます。
放送がいったんプリセットされますと、あとはこのボタンを押すだけで希望する放送をいつでも呼びだすことができます。
なお、このボタンを押すと PRESET STATIONS の数字は緑色から橙色に変わります。

ステレオの略
ST/QSC インジケーター

QSC：FM ステレオ放送において電界強度が弱い場合はこのインジケーターが緑色に点灯し、QSC（クワエティング スロープ コントロール Quieting Slope Control）回路の働きで雑音の少ない放送が楽しめます。
また、電界強度が強い場合には、QSC 回路が自動的に解除され、インジケーターは消えます。

ST：FM ステレオ放送を受信しますと、このインジケーターが点灯します。
しかし、FM ステレオ放送でも MODE インジケーターの〝MONO〞の部分が点灯しているときには、このインジケーターは点灯しません。〝AUTO〞の部分が点灯するように再度 FM MODE/MUTE のボタンを押してください。

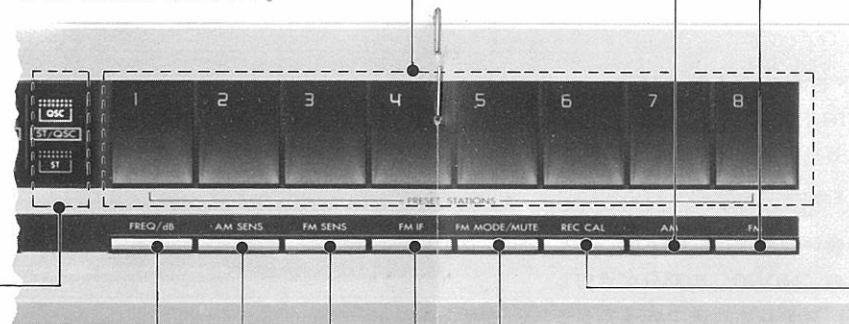
フリケンシイの略 デシベル
FREQ/dB

このボタンを押すと FM 放送では 1 μV/75Ω を 0dB、また AM 放送では 1 μV/m を 0dB として、螢光表示管に約5秒間入力の電界強度を表示しますが、そのあとは元の周波数表示にもどります。
FM 放送のモノーラルで 40dB 以上、ステレオで 60dB 以上、また AM 放送では 70dB 程度あれば比較的良好な電界強度といえます。
なお、微弱電波 および 強入力電波に対しては、電界強度を正確に表示しないことがあります。

（注）・**このボタンを押し続けると数値が少し変わることがありますが、これは瞬間瞬間の電界強度を測定しているためで、故障ではありません。**

センシィティビティの略
AM SENS

通常 AM 放送では、AM SENS インジケーターの〝NORM〞（ノーマルの略）の部分が点灯するように、また 強電界地域のかたで音質を重視されるかたは〝Hi-Fi〞（ハイファイ）の部分が点灯するように、このボタンを押します。

AM SENS ～ REC CAL までの各ボタンと対応しているインジケーターは、ボタンを再度押し直すともとの表示にもどります。

FM 放送では、受信状態に応じて FM SENS と FM IF がそれぞれ最良の状態で自動設定され、かつその状態を記憶させておくことができますので、電源を再度いれたときでも前に設定した状態で呼びだすことができます。
しかし、アンテナの向きを変えたり、セットを移動したりして受信状態が変わったときには、再度プリセットし直してください。

センシィティビティの略
FM SENS

通常 FM 放送では、FM SENS インジケーターの〝DX〞の部分が点灯するように、また 強電界地域のために入力オーバーでいろいろな障害に悩まされているかたは、電界強度の強さに応じて〝−10〞または〝−10〞と〝−15〞の部分がそれぞれ点灯するように、このボタンを押します。この場合〝−10〞で約 10dB、〝−10〞と〝−15〞で約 25dB の減衰量が得られます。

（注）・**本機の電界強度表示はアンテナの入力端子電圧を測定しておりますので、このボタンを押して約 10 dB または 25 dB の減衰量があっても、FREQ/dB の表示が変わることはありません。**

AM

AM 放送をお聞きいただく場合、このボタンを押します。

FM

FM 放送をお聞きいただく場合、このボタンを押します。

キャリブレーションの略
REC CAL

AM または FM 放送の録音レベルをチェックする場合、REC CAL インジケーターの〝333 Hz〞の部分が点灯するように、このボタンを押します。
ボタンを押すと 333 Hz の基準信号がでますので、テープデッキ側の録音レベルメーターが〝0〞VU を指すように録音レベル ボリウムを調整してください。
この場合 放送内容や使用するテープの種類によっては、若干録音レベルを変えた方がよい場合もありますので、詳細はテープデッキ側の「取扱説明書」をご参照ください。

（注）・**333 Hz の基準信号がでておりますと AM または FM 放送を聞くことができませんので、録音レベルのチェックが終り次第 REC CAL インジケーターの〝OFF〞の部分が点灯するように、再度このボタンを押してください。**

モード　ミュート
FM MODE/MUTE

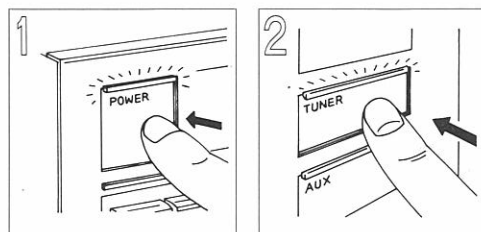
通常 FM 放送では、MODE インジケーターの〝AUTO〞の部分が点灯するように、また 電波事情の悪い地域では〝MONO〞（モノ）の部分が点灯するように、このボタンを押します。
この場合〝AUTO〞の部分が点灯しているときには、FM ステレオ放送はステレオで、ステレオでない放送はモノーラルで受信されます。
なお、〝MONO〞の部分が点灯しているときには、FM ステレオ放送であってもモノーラルとして受信され、雑音は小さく聞きやすくなります。

FM IF

通常 FM 放送では、FM IF インジケーターの〝NORM〞の部分が点灯するように、また 弱電界の場合や逆に強電界の場合であっても隣接妨害があったりしたときには、〝NAR〞（ナローの略）の部分が点灯するように、このボタンを押します。

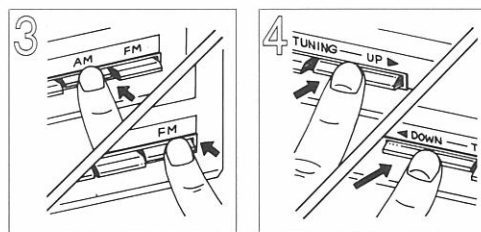
放送を聞くには

■ 放送の聞きかた

1．**電源をいれてください。**

2．**放送が聞けるように、アンプ側のスイッチを切り替えてください。**

SOURCE または FUNCTION スイッチなどを〝TUNER〞にします。

3．**お聞きいただく放送を選択してください。**

AM放送のときには〝AM〞のボタンを、またFMでは〝FM〞のボタンを押します。

4．**選局をしてください。**

受信周波数を高くするときは〝UP〞のボタンを、また低くするときには〝DOWN〞のボタンを押します。

・**放送局の周波数を正確に覚えていないときには**

TUNING（UP または DOWN）のボタンを1秒以上押し続けてから手を離してください。

自動選局となります。

自動選局では、自動的に放送を捜しだし、螢光表示管にその周波数を表示して止まります。

・**自動選局中の放送を止めるには**

TUNING のボタンを再度押してください。

・**弱電界地域では**

TUNING のボタンを1回ずつ押すと、AMで9kHz、FMで 100kHz のステップで受信周波数が変化します。

このように手動選局で1回ずつ押せば、自動選局では見逃されていた放送をきめ細かく選局することができます。

・**放送を早く受信するには**

聞きたい放送が近づくまで TUNING のボタンを押し続け、放送を早送りしてください。

そして近づいたら1回ずつ押すようにすれば、早くて正確な選局ができます。

・**受信周波数が上限 または 下限に達したときには**

手動選局だと何回押してもそれ以上周波数は変りません。上限に達したときは〝DOWN〞のボタンを、また 下限では〝UP〞のボタンを押してください。

なお、自動選局のときは上限に達すると低い方へ、また 下限では高い方へ自動的にもどされます。

・**放送がプリセットされているときには**

PRESET STATIONS のボタンを押します。

なお、放送をプリセットするときには、「■ プリセットのしかた」の項をご参照ください。

（注）・**電波事情の良い地域では、MODE インジケーターの〝MONO〞の部分が点灯していますと、ステレオ放送であってもモノーラルになったり、弱電界地域では逆に〝AUTO〞の部分が点灯していますと、ミューティング回路の働きでFM 放送まで消えてしまうことがあります。**
FM MODE/MUTE のボタンは、お聞きいただく地域の電波事情に合わせて最適の状態でお使いください。

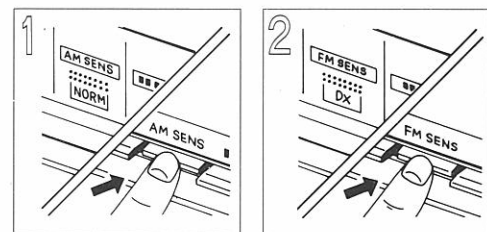
5．**放送が聞けるように音量をあげてください。**

音量はアンプ側の VOLUME で調整します。

■ 放送の上手な聞きかた

・AM放送の場合

1．通常は AM SENS インジケーターの〝NORM〞の部分が点灯します。

しかし、電波事情のよい地域で音質を重視されるかたは、〝Hi-Fi〞の部分が点灯するようにしてください。

・FM放送の場合

2．通常は FM SENS インジケーターの〝DX〞の部分が点灯するように、FM SENS のボタンを押します。

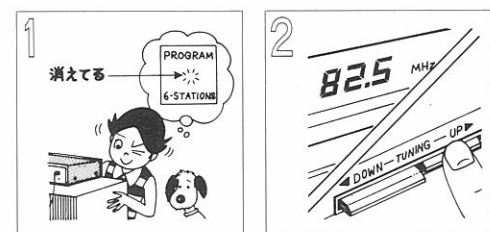
しかし、強電界地域でいろいろな障害に悩まされているかたは、〝−10〞または〝−10〞と〝−15〞の部分が点灯するようにしてください。

〝−10〞で約 10dB、〝−10〞と〝−15〞で約 25 dB の減衰量が得られます。

（注）・**雑音や妨害電波の多いときには、屋外にFM専用アンテナを立てるか、あるいはFM IF インジケーターの〝NAR〞の部分が点灯するように FM IF のボタンを押してください。**

■ プリセットのしかた

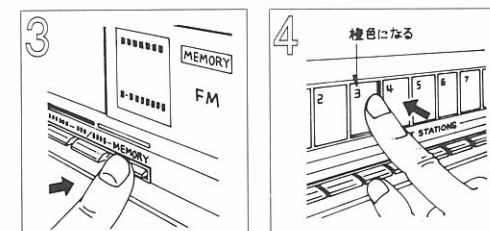
1．**PROGRAM インジケーターが消えていることを確認してください。**

このインジケーターが点灯していると MEMORY と MON/AUTO のボタンを除いて、それ以外のボタンでは操作できません。

2．**プリセットする放送局の周波数をあらかじめ調べておいてください。**

TUNING のボタンを押して希望する放送を選びます。

なお、選局のしかたについては「■ 放送の聞きかた」の4項をご参照ください。

3．**MEMORY のボタンを押してください。**

MEMORY インジケーターが約5秒点灯します。

4．**MOMERY インジケーターが点灯している間にPRESET STATIONS のボタンを押してください。**

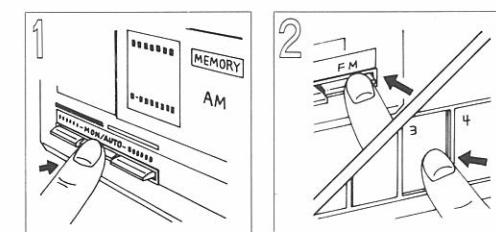
その場所に放送が記憶（メモリー）されます。

（注）・**MEMORY インジケーターが消えてから PRESET STATIONS のボタンを押しても放送は記憶されません。**
そのような場合には、再度 MEMORY のボタンを押し直してください。

5．AMで8局、FMで8局プリセットできます。

■ オートメモリーのしかた

1．**MON/AUTO のボタンを押してください。**

MEMORY インジケーターが約5秒点灯します。

2．**MEMORY インジケーターが点灯している間に PRESET STATIONS のボタンを押してください。**

受信周波数が高い方へ連続して変化します。

この場合、途中に放送があれば順次自動的に記憶（メモリー）されていき、放送が記憶されると PRESET STATIONS の数字が緑色から橙色に変わります。

（注）・**オートメモリーでは、最初の周波数は記憶されませんので、その周波数を記憶させるときには、それより低い周波数からスタートさせてください。**

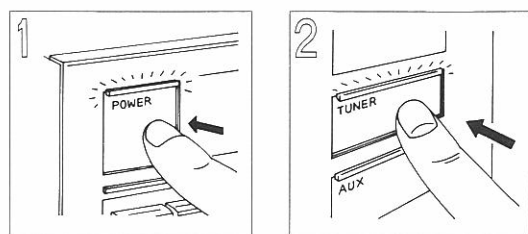
・**MEMORY インジケーターが消えてから PRESET STATIONS のボタンを押しても、オートメモリーは開始されません。**
そのような場合には、再度 MON/AUTO のボタンを押し直してください。

・**オートメモリーを PRESET STATIONS のボタン〝2〞から始めたとき、メモリーできる局がその間になければ〝1〞にもどされますが、〝1〞から始めたときにはAMで 1,611kHz、FMでは 90MHz で停止し、PRESET STATIONS のボタンには何の数字も表示されません。**

説明のないボタンに関しては、「**主要部分の名称および働き**」の項・5～8ページをご参照ください。

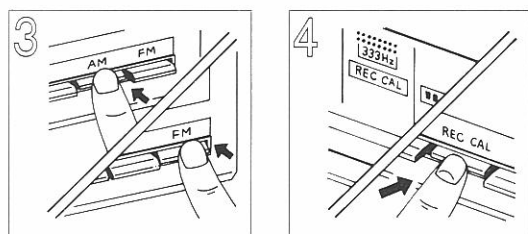
録音をするには

■ 録音のしかた

1．電源をいれてください。

2．放送が聞けるように、アンプ側のスイッチを切り替えてください。

SOURCE または、FUNCTION スイッチなどを〝TUNER〞にします。

3．どの放送を録音するのか、選択してください。

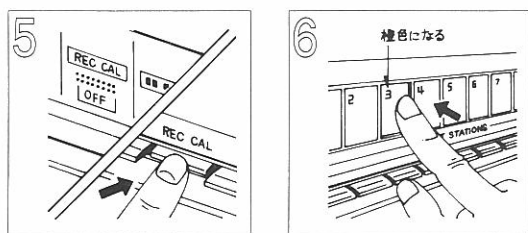
AM 放送のときには〝AM〞のボタンを、また FM 放送では〝FM〞のボタンを押します。

4．録音レベルをチェックしてください。

REC CAL のボタンを押すと 333 Hz の基準信号がでますので、テープデッキ側の録音レベルメーターが〝0〞VU を指すように、録音レベル ボリウムを調整します。

5．録音レベルのチェックが終り次第、333 Hz の基準信号は消してください。

REC CAL のボタンを再度押し直すと、この基準信号は消えます。

この基準信号が消えると REC CAL インジケーターの〝OFF〞の部分が点灯します。

（注）・333 Hz の基準信号がでておりますと、AM または FM 放送を聞くことはできません。

6．録音する放送を PRESET STATIONS のボタンの中からお選びください。

放送がプリセットされていない場合には「■ 放送の聞きかた」の4項・9ページをご参照のうえ、選局してください。

7．テープデッキ側を「録音」にします。

■ 留守録音のしかた

本機にはプログラム機能が付いておりますので、AM 放送と FM 放送をお好きな順序で6つまで番組予約（プログラム）しておくことができます。

従って、何回でも〝ON〞、〝OFF〞させることのできる市販のタイマーを使えば、お好きな番組を自動的に受信したり、留守録音したりすることができます。

・1局だけを留守録音する場合

PROGRAM インジケーターが消えた状態にしておくと、次に電源をいれたときには、PRESET STATIONS のうち最後に聞いた局が受信されますので、その局が留守録音されます。

・プログラム録音をする場合

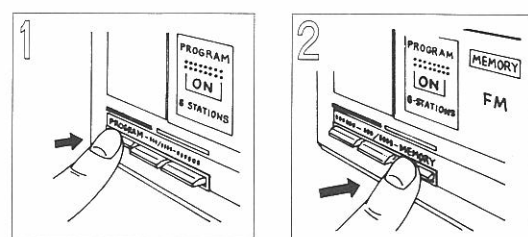
電源コードをタイマーにつなぎかえてから録音する順に放送をプログラムし、タイマーをそれぞれ希望する時間に合わせてテープデッキ側を「録音」にしておきます。

特にプログラムしたあと電源コードをつなぎかえますと、2番目の局からスタートしますので、そのようなときには PROGRAM スイッチを一度切ってから再度いれ直してください。

■ 番組予約のしかた

まず放送をプリセットしてから、次の順序に従って番組予約をおこなってください。

1．番組の予約順序をあらかじめ決めてから PROGRAM のボタンを押してください。

例えば、	1番目	FM	PRESET STATIONS	3
	2番目	FM	PRESET STATIONS	7
	3番目	FM	PRESET STATIONS	8
	4番目	AM	PRESET STATIONS	3
	5番目	AM	PRESET STATIONS	4
	6番目	FM	PRESET STATIONS	1

2．MEMORY のボタンを押してください。

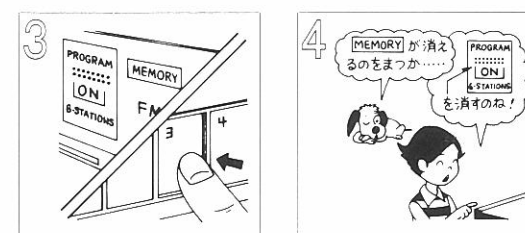
MEMORY インジケーターが約5秒点灯します。

3．MEMORY インジケーターが点灯している間に、あらかじめ決めた順序で番組を予約してください。

例えば、最初に予約する放送が FM の3番目の局とすれば、FM のボタンを押して PRESET STATIONS 3のボタンを押します。

この場合 MEMORY インジケーターは、各プリセットボタンを押してから各々約5秒間点灯しておりますので、その間に次の放送を予約してください。

（注）・MEMORY インジケーターが消えてから PRESET STATIONS のボタンを押しても番組を予約することはできません。

そのような場合には、再度 MEMORY のボタンを押し直してください。

・2〜3局しか番組予約をしない場合

4．MEMORY インジケーターが消えるまで待つか、PROGRAM インジケーターを消してください。

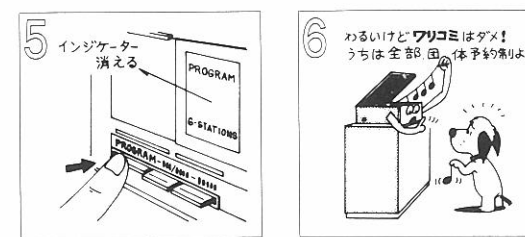
例えば3局まで番組予約する場合には、3局まで予約したらそのままで MEMORY インジケーターが消えるのを待つか、PROGRAM のボタンを再度押し直して PROGRAM インジケーターを消してください。

・番組予約を一時とりやめる場合

5．PROGRAM インジケーターを消してください。

PROGRAM のボタンを再度押すと、インジケーターは消えます。

インジケーターが消えたあと、PRESET STATIONS のボタンを押すか、TUNING のボタンを押して選局してください。

なお、この場合予約された番組は、すべて保持されております。

・番組予約を一部変更する場合

6．一部だけ番組を変更したり、とり消したりすることはできませんので、そのような場合は全部最初から予約し直してください。

・番組予約をとり消す場合

7．PROGRAM インジケーターが点灯しているときに MEMORY インジケーターを点灯させ、新たに番組を予約しなければ、前に予約した番組がすべてとり消されます。

・連続して2局以上の番組を留守録音する場合

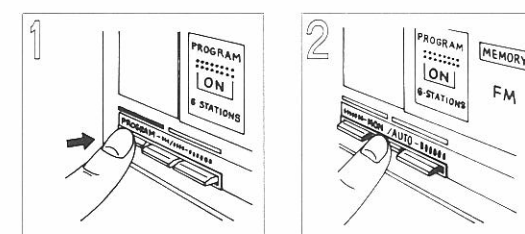
8．タイマーで一度電源を切ってください。

例えば8時まで A 局を、続いて8時からは B 局を連続して録音する場合には、電源をいれたままで自動的に放送を切り替えることはできません。

7時59分で一度電源を〝OFF〞にしてから、8時で再び〝ON〞するようにタイマーを合わせてください。

■ 番組予約の確認のしかた

1．PROGRAM のボタンを押してください。

PROGRAM インジケーターが点灯します。

2．MON/AUTO のボタンを押してください。

番組の予約した順に周波数が約1秒の間隔で表示され、最後の番組の周波数を表示してから止まります。

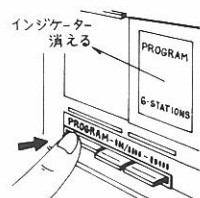
なお、番組の途中で最初からやり直す場合には、PROGRAM のボタンを押して PROGRAM インジケーターを消してから、再度インジケーターを点灯させてください。最初のプログラムにもどされます。

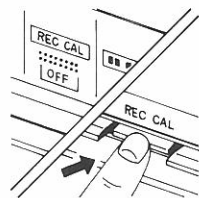
説明のないボタンに関しては、「主要部分の名称および働き」の項・5〜8ページをご参照ください。

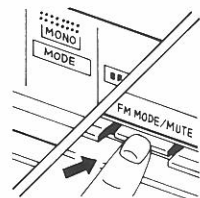
故障？ と思う前に

—おや？ 故障かな？ と思ったら………
修理を依頼する前にちょっとお確かめください—

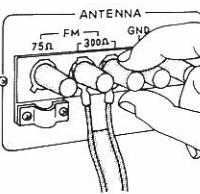
放送がはいらない。

PROGRAM インジケーターが点灯していませんか。

PROGRAM のボタンを押して、PROGRAM インジケーターを消してください。

録音レベルをチェックする基準信号 333 Hz がでておりませんか。

333 Hz の基準信号が消えるように、再度 REC CAL のボタンを押してください。

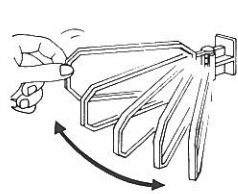
弱電界でミューティング回路が働くと、FM 放送がはいらないことがあります。

MODE インジケーターの "MONO" の部分が点灯するように、FM MODE/MUTE のボタンを押してください。

雑音で聞き苦しい。

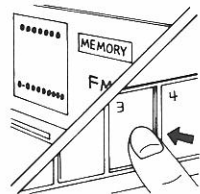
アンテナがはずれていませんか。

アンテナを確実に接続してください。

アンテナを束ねたまま床などに放っていませんか。

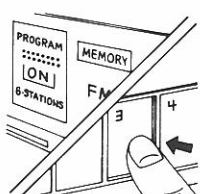
もっとも受信状態のよい方向にぴーんと張ってお使いください。

ループ・アンテナがパネルに近づいていませんか。

ループ・アンテナをパネルから離し、向きも変えてみてください。

放送がプリセットできない。

MEMORY インジケーターは点灯していますか。

MEMORY インジケーターが点灯している間に PRESET STATIONS のボタンを押してください。

番組予約ができない。

PROGRAM インジケーターと MEMORY インジケーターが点灯していますか。

MEMORY インジケーターが点灯している間に番組予約をおこなってください。

仕様

● FM チューナー部

受信周波数	76 MHz ～ 90 MHz	
実用感度	0.95 μV/75 Ω (10.8 dBf)	
50 dB S/N 感度	モノーラル	1.8 μV/75 Ω (16.4 dBf)
	ステレオ	9.8 μV/75 Ω (31.0 dBf) QSC AUTO
S/N	モノーラル	88 dB (IHF-A)
	ステレオ	82 dB (IHF-A)
全高調波歪率	モノーラル	0.06 % (1 kHz)
	ステレオ	0.06 % (1 kHz)
キャプチャー レシオ	1.0 dB	
実効選択度	NORMAL	55 dB (IHF)
	NARROW	80 dB (IHF)
イメージ妨害比	85 dB	
IF 妨害比	110 dB	
AM 抑圧比	67 dB	
チャンネル セパレーション	56 dB	
サブ キャリアリーク抑圧比	70 dB	
ミューティング スレシホールド レベル	4.4 μV/75 Ω (24.1 dBf)	
周波数特性	20 Hz ～ 15 kHz $^{+0.3}_{0.6}$ dB	
ディ・エンファシス特性	50 μsec	
アンテナ入力インピーダンス	75 Ω 不平衡型、300 Ω 平衡型	
出力信号レベル	600 mV/2.2 kΩ	
録音レベル	FMの約50 %変調相当 (333 Hz)	

● AM チューナー部

受信周波数	522 kHz ～ 1,611 kHz
実用感度	20 μV
全高調波歪率	0.3 %
S/N	50 dB
選択度	30 dB (± 9 kHz)
イメージ妨害比	40 dB
IF 妨害比	65 dB
出力信号レベル	200 mV/2.4 kΩ (30 %変調時)

● 電源部・その他

電源電圧	AC 100 V (50 Hz、60 Hz 両用)
消費電力	POWER ON時 10W (〒 電気用品取締法基準) OFF時 2 W
重量	3.2 kg (本体)

付属品

- 簡易型 FM アンテナ………… 1
- シグナル コード (1.2 m)…… 1
- ループ・アンテナ……………… 1
- アンテナ ワイヤー (2 m)…… 1

(注)・FM 時における各種の数値は、IHF 測定法によって測定した値です。
なお、IHF は米国のハイファイ協会 (Institute of High Fidelity Incorporation) の略称です。

・本機の仕様 および 外観は、改善のために予告なく変更することがあります。